

《埼玉協同病院だより》

ふれあい

2013年 No.314

発行：埼玉協同病院

〒333-0831 川口市木曽呂1317

Tel.048-296-4771

Fax.048-296-7182

ホームページ：http://www.kyoudou-hp.com

12

診療科紹介 整形外科

県内トップクラスの手術実績と 充実したリハビリテーション

当院の整形外科は地域の基幹病院の一つとして、質の高い医療を提供し、地域の患者様にご満足いただける医療を提供すべく、今後もますます診療体制を充実させてまいります。

診療体制は4名の常勤医師（仁平、森末、北村、遠藤）と、14名の非常勤医師（主に慶応大学病院から）が診察にあたります。合計18名の整形外科医師がそれぞれの専門分野の治療（人工関節、脊椎、手の外科、膝、股関節、上肢、リウマチ、腫瘍、小児整形外科等）を担当します（詳細は外来表をご参照ください）。また、骨折等の外傷や救急搬入にも適時対応しています。

平成20年より、人工関節手術を当整形外科のメインテーマとしてかかげ、最新のコンピューター支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。人工関節手術は膝や股関節の強い痛みのため歩行や日常生活に大きな支障が出てきた患者様に対して施行し、大幅な痛みの緩解や日常生活動作の大きな改善が期待できます。人工関節手術実績は県内でもトップクラスであり（25年度<1-11月>実績：人工

膝・股関節手術件数：308件）、患者様は埼玉県内にとどまらず、他県からも手術を受けにいらしていただいております。

整形外科は単独で50床の入院病棟を有し（内科等の患者様とは一緒にありません）、院内全体では7対1看護体制で（患者様7人に対して1人の看護師：一番手厚い看護体制です）、整形外科看護に特化した看護師が入院患者様のケアに当たります。

当科でのさらなる特徴は入院リハビリテーションの充実です。当院には45名のリハビリ技師が常勤し、なかでも整形外科病棟専任の理学療法士7名が人工関節手術、骨折手術等を専門にリハビリテーションを行います。また、入院期



整形外科病棟スタッフ一同

間が長期にわたる患者様には回復期リハビリテーション病棟が用意され、さらなるリハビリをさせていただいております。

患者様にご満足いただけるよう、整形外科チーム一丸となり、よりよい医療を提供するようにまいります。

（日本整形外科学会研修認定施設 日本リウマチ学会研修指定施設 慶応義塾大学医療連携協力医療機関） 整形外科部長 仁平 高太郎

透析室の機器を 更新しました

透析室では、体に溜まった余分な水分や老廃物を排出するために1人に対し1台の機器を使用します。これまで使用していた機器が更新時期となったため、午後透析の開始にあわせて機器購入を行いました。



新しい透析機器です

年末増資に ご協力ください

新しい機種では治療中の血管内水分を測定し、患者様に異常がないか、いち早く知らせる機能を搭載しています。

また、オンラインHDFという新しい治療も全台で行えるようになりました。オンラインHDFは、清浄化された透析液を用いて通常の透析にろ過を加えた治療法です。

透析では除去困難な大きな分子量の尿毒素（β2ミクログロブリン等）の除去に優れ、そ

れらが関節や神経に沈着し、麻痺したり炎症を起こしてしまう透析アミロイド症等の合併症に効果があります。補液をしながら治療を行うため、心臓にも負担が少なく、血圧の低い方にも有効です。

（臨床工学技士 丸岡早紀）

毎年12月は年末増資期間として、皆様へ増資のお願いをさせていただきます。

皆様からお預かりした出資金は、「無料送迎バスの運用」、「差額料金のない入院医療の維持」や「新しい透析機器の購入」などに活用させていただいております。

増資の受付は生協コーナーま

たは総合受付でお預かりしております。あわせて、ご家族名義で加入している場合でも、ご本人名義での加入も可能ですので、是非この機会にご検討ください。組合員さんが「安心できる事業所」へと更に発展させていくよう努めてまいりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

年末年始の診療体制

	12月				1月			
	28日(土)	29日(日)	30日(月)	31日(火)	1日(水)	2日(木)	3日(金)	4日(土)
午前	○	×	×	×	×	×	×	○
午後	×	×	×	×	×	×	×	×
夜間	×	×	×	×	×	×	×	×

急患の場合は応対させていただきますので、まずはお電話ください。

○診療 ×休診

休診日は医師や検査等の体制が薄くなります。暮れに近づき体調が優れないなど感じたら休診前の早めの受診をお奨めします。

専門医シリーズ 6 技量を高めて的確な治療を

私は当院で2年間初期研修を行った後、埼玉医科大学総合医療センター皮膚科で専門医研修を行い、8年目の今年、皮膚科専門医を取得しました。

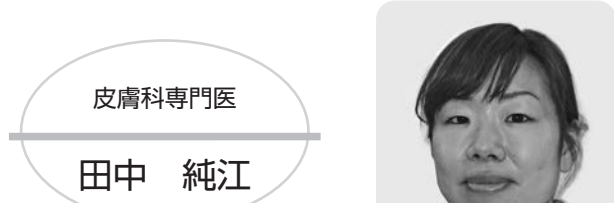
研修医時代は内科、外科、小児科など各科で研修を行い、それぞれの科で魅力を感じましたが、家事、育児と仕事との両立ができ、また年齢を重ねるごとに（経験を積み重ねる）専門性を高められると思い、皮膚科を選択しました。

研修医時代は夫と交替で当直に入ったり、家事も分担してこなしていましたが、専門医研修を行っている間は、家事育児ともままなら

ず、主人の実家で随分とお世話になりました。仕事をしながら、学会発表、論文作成など目の回る忙しさでしたが、自分の専門性を証明してくれるものとして、皮膚科専門医だけは取らなければと必死でした。

皮膚科はひと目みて診断がつくものから、いくつかが鑑別診断をあげ、皮膚生検を行い、自分で病理診断も行って最終的に診断にたどりつくこともあり、おもしろいといっは語弊がありますが、謎解き推理のような感じのところもあります。

皮膚生検を行い、最初に思っていた病名が



皮膚科専門医

田中 純江

き、治療がうまくいくとうれしい反面、うまくいかない時は、自宅に帰ってから悶々と考えてしまいます。

皮膚科の世界も新しい治療薬が出たり、また他科で使われる薬剤も新しく出てきており、それらの薬剤による有害事象を診察する機会も多く、的確な治療を行えるように、これからも各種学会、勉強会などに積極的に参加し、専門医としての技量をさらに高めていきたいと思

シリーズ 医療の質の改善 6 転倒事故を防ぎます

当院では、医療の質を定量的に測るための指標を300以上設定しています。測定値をもとに課題を明らかにして改善策を立てたり、実行したことが改善にむすびついているかどうかを確かめたりしながら、継続的な改善を図るためです。今回は入院患者様の転倒事故に関する指標と改善の取り組みを紹介します。

当院では転倒件数、そのうち治療を必要とする転倒件数とそれらの発生率などを調査してい

ます。転倒事故は外傷のほか、骨折や脳挫傷を起こす可能性もあり、生活に障害を残す場合があります。入院の原疾患の他に治療を要し入院期間が長くなり、また原疾患の治療自体にも影響を及ぼすこともあります。そのため転倒事故は予防しなければなりません。

図1は2010年1月から2013年9月までの期間で骨折等治療が必要な重症転倒件数と発生率推移を示しています。2012年は前年4件から11件と倍以上の件数があり2013年も9件で発生率も高くなっています。この結果は病院全体で問題視し、課題として予防に取り組んでいます。

入院患者様には「転倒・転落危険度評価同意

書」を入院時に記入していただいています。これは医療スタッフが転倒リスクを把握するためと患者様ご家族に転倒の危険性を理解していただく目的があります。入院中は生活環境が変化し、病気の症状や治療の過程によって思うように体を動かさず転倒してしまう可能性があります。医療スタッフは安全に入院生活を過ごす援助に努力しておりますが、患者様ご自身もご協力や注意をお願いします。

図2は2012年、2013年転倒患者の「転倒・転落危険度評価同意書」から危険要因をチェックされた該当数を示したものです。転倒歴や身体

に不自由があると転倒する可能性が高いようです。転倒事例によって患者様の病態や状況はさまざまであるので医療スタッフは重症に至る事故につながる要因を分析し、評価を活かした患者様の個別の対策に取り組むことが必要です。

各部門で安全管理の活動を進めるリスクマネージャーの会議では「転倒予防」、「重症化を防ぐ」、「患者様への注意協力よびかけ」の3つのチームに分けて検討しています。多職種で構成されたチームで、それぞれの専門性を発揮した取り組みで転倒事故を減らす活動を進めています。（診療情報部）

図1 骨折等治療が必要な重症転倒件数と発生率

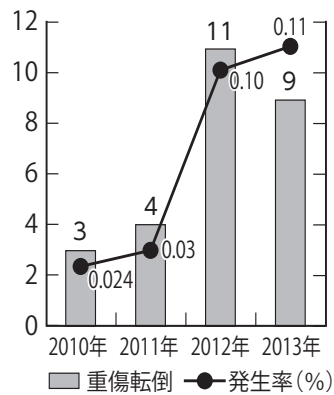
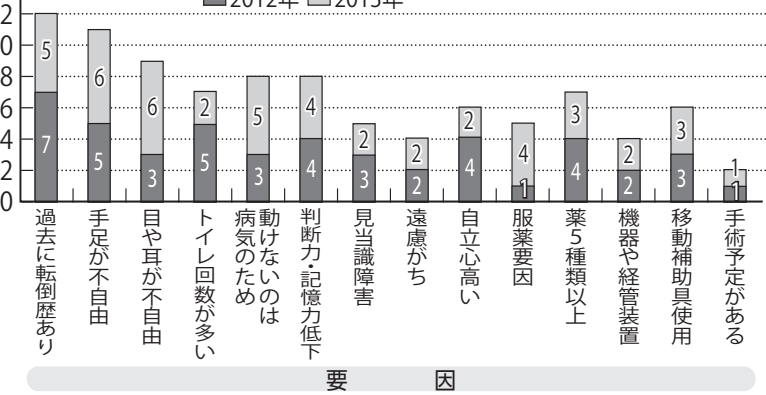


図2 転倒患者の「転倒・転落危険度評価同意書」からみる要因



当院と医療連携している

開業医さんのご紹介 41 鳩ヶ谷第一クリニック



峯 徹先生

昭和63年開業以来、「かかりつけ医」として、「患者様やその家族のために医療」を心掛けて25年が経過しました。

どんな症状でも状態でも、正しい診断とより良い治療を考えて、十分に患者様に説明しております。そのために、脳神経を専門にしてきた経験から、MRI、CT、X線撮影や超音波など生理学的検査機器を配備しました。

「認知症」の診断・治療を怠ることがないようにしております。治し得る認知症を見落とさないことです。また、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の予防治療も整形外科医と共に積極的に取り組んでいます。

埼玉協同病院さんには2次救急病院として、夕方・夜間の救急対応に今後とも積極的に受け入れていただくように期待しております。

院長：峯 徹



住所：〒334-0011
川口市三ツ和1-9-27
☎048-281-5210

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	—
午後 15:00~18:30	○	○	○	○	○	—	—

【診療科】内科、脳神経外科、神経内科、消化器科、外科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科
【休診日】土曜日午後、日・祝祭日

*「ふれあい」に掲載の開業医さんを受診される際は、受診前に必ず問い合わせをお願いします。

回復期リハビリテーション病棟で文化祭を開催しました

10月30日（水）回復期リハビリテーション病棟において初めての文化祭を開催しました。この時期は例年運動会を開催していましたが、新しいことをやりたいというスタッフの意見もあり、今回文化祭を企画しました。

文化祭では、川口北高校コーラス部のみなさんの合唱、食養科による季節のデザート提供、職員は患者様と作った紙芝居の発表と楽器演奏を行いました。

川口北高校のコーラス部は全12曲を合唱、懐かしい曲に患者様も一緒に歌う姿が見られました。食養科提供のデザートも大好評で、「美味しいから、もう一個食べたい」「退院前に美味しいものが食べられて嬉しかった」といった感想



川口北高校コーラス部のみなさん、素敵な歌声ありがとうございました。

をいただきました。

紙芝居は【桃太郎】に職員がアレンジを加えたお話で、笑いあふれる作品に仕上がりました。最後は、職員による楽器演奏を行い、普段見られない職員の姿に患者様は楽しんでいる様子でした。

今後も患者様が楽しんでいただける企画を行っていきたく思います。

（回復期リハビリテーション病棟）

駅前健康相談を行いました

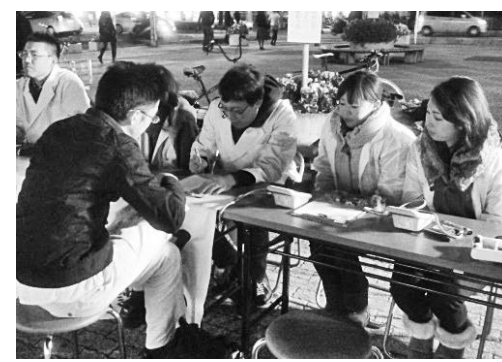
11月11日（月）JR東浦和駅で駅前健康相談会を行いました。この日は、木枯らし1号が吹きととも寒い日でしたが、地域の方の健康状態を把握しようと医師12名、職員23名が参加しました。

増田院長をはじめ職員が「お仕事帰りの皆様お疲れ様です。忙しくて病院にいけない、体調に不安があっても病院に行く時間がないとお思の方は、医師、看護師が無料でご相談をさせていただきます。」とマイクで呼びかけました。1時間という短い時間でしたが、18名の相談者が訪れました。

内科、外科、産婦人科、精神科、小児科と専門医師が集まり相談内容に応じて対応することもできました。血圧が高くて心配という方から

婦人科疾患で気になること、ご家族の病状についての相談などがありました。

7年ぶりに駅前健康相談を行い、このような取り組みが全く初めての医師や職員も多かったのですが、皆一生懸命取り組んでいました。今後は、定期的に行っていければと思います。



相談内容に応じて専門医師が対応しました

虹の投書箱 だより

リハビリの目安時間をお伝えします

問 整形外科に入院し手術後のリハビリを受けています。リハビリ後は身体の動きが良くなり助かっています。の中で、一つ要望があります。1日2回のリハビリの時間が決まっています。待っているのも落ち着かないので時間を決めてもらえないでしょうか。（60代 男性）

答 ご意見をいただきありがとうございます。リハビリ科で検討を行いました。現在は整形外科病棟担当のリハビリ職員が、朝の段階で担当患者様の病室に伺い、おおよその訓練時間についてご連絡しております。今後も改善を図ってまいります。

回答者：遠藤 正夫（リハビリテーション技術科科長）



第144回

●尿糖編●

今回は尿糖検査についてお話しします。尿の検査は比較的簡単に採取できることから健診でも診療でもよく使われています。尿糖とは文字通り尿に含まれるブドウ糖のことです。人間は体外に排泄すべき老廃物を尿に溶かして捨てています。

尿に糖が出始める血糖値のことを尿糖排泄閾値（にょうとうはいせついきち）と呼びます。一般的に排泄閾値は160~200mg/mlとされていますが年齢や個人差が大きいため糖尿病の診断基準には尿糖については書かれていません。つまり尿糖検査が陰性でも糖尿病が無いとはいえないということです。

人によっては排泄閾値が異常に低くて、血糖値が正常でも尿糖が出るというケースがあります。これは腎性糖尿と呼ばれています。

また、妊娠中には腎臓を通る血液の量が増えるので尿糖が出やすくなったりすることがあります。

尿糖検査は一般的に試験紙を使って検査が行われます。この方法の場合尿に大量のビタミンCが含まれていると偽陰性（本当は陽性なのに陰性）になってしまうことがあります。検査の前日は清涼飲料水やジュースなどビタミンCを多く含むものの採りすぎには注意しましょう。

